



寄って 話して 自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

体と心の変化

～子どもの思い、親の戸惑い～



イラスト：うじな かずひこ

小学校も高学年になると、友だちとの行動範囲も広がり、だんだん親と話してくれなくなってきます。また、二次性徴に向かって体と心も大きく変化していきます。

子どもが何を考えているのかわからない、と悩んだことはありませんか。子どもを取り巻く様々な問題や、親子のコミュニケーションについて、一緒に考えてみましょう。

エピソードを読みましょう

アキラくんは小学5年生。サッカー少年で、体もどんどん大きくなっています。

ある日曜日、サッカーの練習試合が急に中止になり、久しぶりに家族全員が揃いました。せっかくなので、少し遠くのショッピングセンターまでドライブがてら、買い物に出かけようという話になりました。昔はよく家族のおでかけに、アキラくんも大喜びでついてきていたのですが…。

お母さん「アキラ！今日は試合がなくて残念だったね。みんなで買い物に行かない？」

アキラ 「行かない」

お母さん「欲しがってたマンガ買ってあげようか？」

アキラ 「友だちと遊ぶ」

お母さん「だれと？」

アキラ 「だれだっていいじゃん」

お母さん「…どこで？」

アキラ 「どこだっていいじゃん」

お母さん「何して？」

アキラ 「もう、何だっていいじゃん！

うるさいな、いちいち！」

お母さん「…」

お父さん「おーい、出発するぞー！

まだかー？」

アキラ 「早く行ってきたら…」

お母さん「アキラ、学校は楽しいの？」

アキラ 「今関係ないじゃん」

お母さん「サッカーでいじめられてない？」

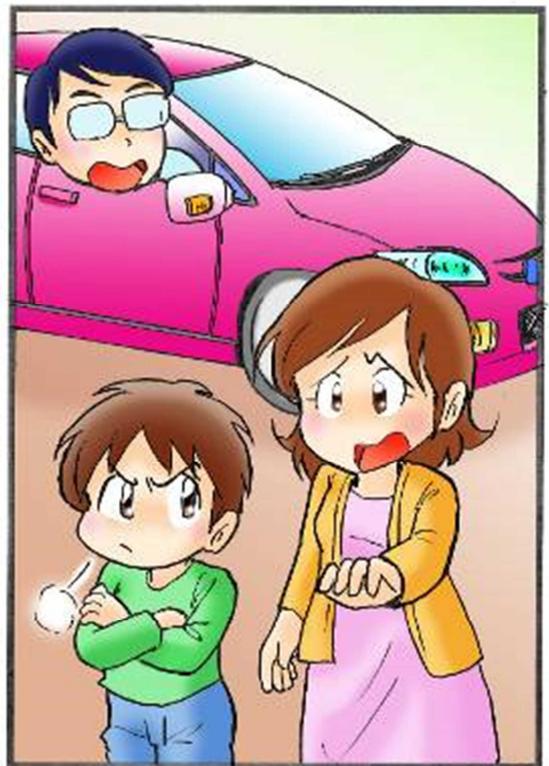
アキラ 「さあ…」

お母さん「お母さんに内緒にしていることがあるんじゃないの？」

アキラ 「べつに…」

お母さん「…」

お父さん「おーい！まーだー？」



考えましょう,出し合いましょう

高学年になった
わが子。どんな
ところが変わっ
てきましたか？



A worksheet for a discussion activity. It features a central oval containing the text '高学年になったわが子。どんなところが変わってきましたか？' (My child in high school. How has it changed?). Four arrows point from this oval to four empty rectangular boxes arranged in a 2x2 grid. Below the grid is a larger empty rectangular box. To the right of the grid is a cartoon illustration of a girl with brown hair, wearing a pink shirt, sitting at a desk and holding a green pen, looking thoughtful.

成長している
わが子。
どのように接
していったら
いいでしょ
う？

A worksheet for a discussion activity. It features a central oval containing the text '成長しているわが子。どのように接していったらいいでしょう？' (My growing child. How should I interact with them?). Two arrows point from this oval to two empty rectangular boxes on the left, and two arrows point to two empty rectangular boxes on the right.

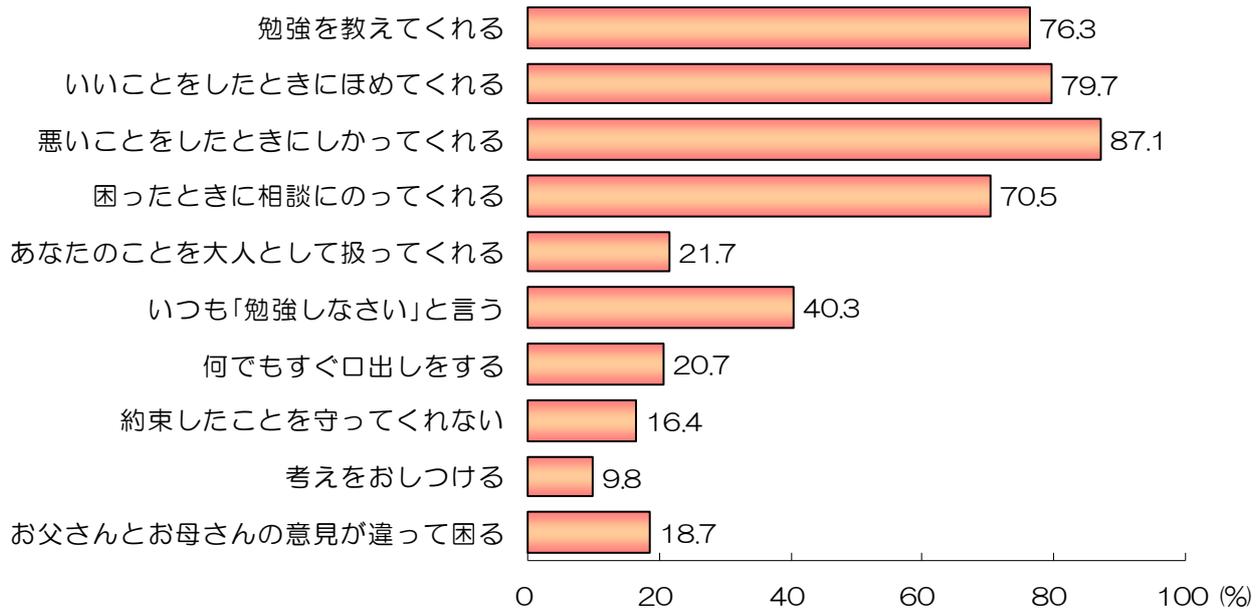
学習を振り返りましょう

気をつけてみようと思ったことを書きましょう。

A large, rounded rectangular box for writing. At the top, it contains the text '気をつけてみようと思ったことを書きましょう。' (Write down what you thought you should be careful about.)

参考資料

親とのかかわり (小学4年生～6年生)



注) 複数回答

Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」2009年より

県民の皆さんの声 (広島県教育モニターアンケートより)



- ◆理想ではなく、現実の環境で子どもは育ちます。同じような体験をもつ方に、同じ立場で相談できたことで、親として一人一人価値観が違い、同じにあてはまろう・あてはめようとしなくてよいと思えました。
- ◆地域の方々が、わが子のよい面を教えてくださいましたので、ダメな子だと悲観し認めてあげられなかった自分自身に気づき反省できました。
- ◆子ども会やPTAで役員を引き受けるようになって、同じ年代の子どもを持つ親同士での会話が増え、同じような子育ての悩みをお互い共有することによって、気持ちが楽になりました。
- ◆毎日夫に子どもの様子を報告し、アドバイスをもらいました。四六時中そばにいる母親とは違った、客観的な見方を聞くと落ち着きました。夫に話すことで、二人で子育てをしていると思えるようになりました。誰かに聞いてもらうことが大切だと思います。
- ◆子どもが話したがらない時期であっても、諦めずに話すことです。そのときの話の内容は、たわいないものがよいと思います。とにかく話をする習慣を、親子が身につけることがよかったように思います。
- ◆やはり、いろんな子育ての仕方があるので、たくさんの人の話を聞いたり、友だちや夫婦で話し合うことが、何よりも自分の子育ての欠点や学びを見つけられることができます。
- ◆ある講演会で“完璧な子育てはありません。私も今思えば、ああしたらよかった、こうしたらよかった、の連続でした”という言葉聞き、自分に対しての肩の力が抜けました。詩人 金子みすず「…みんなちがって、みんないい」、子どもの長所・短所はあるが、みんないいのです。長所に目を向け伸ばしてやろうと思っています。

お問合せ：〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47 広島県立生涯学習センター

TEL：082-248-8848

FAX：082-248-8840

E-mail：